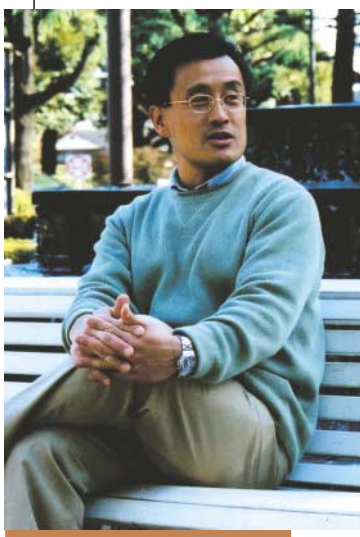
SHUICHI YANO

経済学部教授。
1960年生まれ。1991年京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。本学に赴任して早いもので13年目を迎えました。関西が長く、関東に住むのは初めてだったので、赴任当初は戸惑うことがありました（今も？）が、しぶとく生き抜いてます。43歳、「シブイ中年」を目指し日々頑張ってますんで、ヨロシク。



矢野修一

1 はじめに

『学びへのいざない』前号には、「たとえば、ポシビリズム研究会～受験トラウマと偏差値幻想を越えた『学び』のあり方」と題する駄文を寄稿しました（関心のある方は**http://www.geocities.co.jp/College Life-Lounge/2137/**をご覧ください）。今回は、「高崎経済大学経済学部で学ぶ」とはどういうことなのか、どんなふうに学べばいいのか。赴任＆高崎市在住13年目を迎えた一教員の立場で経済学部の皆さんに語ってみようと思います。「高崎経済大学経済学部で学ぶ」ということの「本質」が今ひとつきちんとした形で認識できていない、したがって、やる気も出ないし自信も持てないといった学生さんを時々見かけるからです。それじゃあ、あまりにもったいないからです。

2 「上並榎村」の「全国型」大学

皆さんご承知のとおり、高崎経済大学は、群馬県の人口25万に満たない地方都市を設置者とする公立大学ですが、経済学部学生の8割弱は群馬県外の出身です。これだけの数が全国各地から集まるという意味では、今や日本で数少ない全国型大学のひとつです。下宿率が高く、大学から半径2キロメートル以内に多くの学生が住んでいます。皆さん、あまりピンとこないかもしれませんが、これって、現在の日本では稀有な特長なのです。

こういう環境だとどうなるか。たとえば、日曜を含め、毎日でもゼミができます。バイトが終わって午前0時からでも下宿やファミリーレストランで勉強会をやっています。体育会や文化サークルの活動もおんなじ。上並榎町では全国各地から来た学生の言葉が飛び交い、チャリンコが走り回り、独特な空気が漂っています。　ここで学生は様々な活動を通じて、いろいろな人と語り、濃密な時間を共有します。付近一帯が丸ごと、大学の寄宿舎のように、「上並榎村」とでも呼びたくなるような空間を形成しています。長期の休み期間中は、友人同士、お互いの実家を訪ねあったりします。そして、日本の各地域から群馬県の一地方都市に集まった学生が、卒業後はまた日本の各地域に散り、あるいは世界に羽ばたき活躍してくれるのです。

こんな「上並榎村」は、「一生ものの人間関係」を育んでくれるところです。

3 東京のマンモス大学が失ってしまった「特長」

大げさではなく、今や日本の大学が失いつつある環境がここには確かにあります。古き良き大学の面影。名前ばかり有名な東京の大学では考えられないことです。そうした大学では、通学時間1時間以上の自宅通学生が多く、たとえゼミであっても、カリキュラム上の時間割以外に大学で顔をあわすなど、至難の業なのです。確かに、高崎経済大学の環境・研究条件は、東京あたりの大学とは「違った」ものではありますが、けっし

特集 2

大学で「ま・な・ぶ」とは、どういうことか

て「劣って」はいません。本学の「特長」なのです。勉強をするにしても、サークル活動をするにしても、友人と付き合うにしても、今や日本のほとんどの大学では望むべくもない「環境」の意味を、経済学部生は認識すべきだと思います。

本学のこの特長を生かすも殺すもあなた次第です。ふさぎこんでいないで、顔を上げ、自らの手で扉を開けてみてください。目を見開き、耳を澄ましてみてください。学ぶ仲間がいます。分かるはずです。ここでしかできないこと、ここだからこそやれることが。

4 反経済学的に、大いに無駄を！

本学経済学部で何を学ぶか。他の先生方がこの冊子で語っていますから、私からは「学び」の基本的スタンスについて一言だけ。

自らの持てる「手段」を有効に用いて「目的」を果たす。最小の「コスト」で最大の「利益」を得る。何事も効率的に。経済学部の授業では、こうした考え方を、それこそ耳にタコができるほど聞くことでしょう。私は「高崎経済大学経済学部で学ぶ」基本として、あえて「反経済学的になれ。大いに無駄をせよ。」と言っておきたいと思います。

まじめな学生さんほど、最短距離を行こう、効率的に学ぼうと考えがちです。これをすべて否定しようとは思いません。でも、どういう道が最短距離なのか、何が手段で目的なのか、最初から分かっているとは限りません。役に立つか立たないか、試験に出るか出ないか、会社で働くことと関係あるかないか。これが学生さんの「学ぶ」基準だとすれば、何と空しく、つまらないことでしょうか。結果的には、「非効率的」なことですらありえます。勝手に思いこんだ最短距離は、けっして最短でも効率的でもないかもしれません。無駄をしないという志向は、勉強の上でも、進路の選択でも、人間関係でも、新たな「発見」の機会を失いがちです。今のあなたが想定していない、別の「可能性」を閉ざしがちです。

5 そして、俺も学ぶ

高経大にやってきて、これまで私は多くの素晴らしい学生さんに出会いました。目先の利益という点からすれば、大いなる無駄をするような学生諸君に。バイト代をもらったら岩波新書を棚ごと買い、1冊ずつ読んでいくような学生。ディベートの準備で徹夜が続き、昼休み、教室の椅子で仮眠をとる学生。卒業論文を何度も書き直し、最後はフラフラになりながら提出しに来る学生・・・。彼らの「学ぶ」姿勢からエネルギーをもらい、いろいろなことを学ばせていただきました。学ぶ彼らとともに歩んでいくためにも、「過去完了」ではいられません。私自身、常に「現在進行形」でありたいと思っています。